

6

局長

總務部長

總務課長

庶務課長

十月二十日

保高第 三三號

昭和三十一年十月十日

特別輸送艦保高艦長復員事務官前田一郎

横須賀地方復員局長殿

故障鉄損報告

一概要

昭和三十一年十月九日〇九三〇本艦那覇港岸壁横付時  
(米人水先案内人乗艦)艦首と岸壁に激衝し水線上約一米半  
附近艦首材を左舷側に弯曲切断し外飯上石舷側横約二  
十厘米左舷側縦約二米の亀裂を生じた(第一回参照)

二情況

前日に引續き外港は荒天下風向北東風速平均十八米  
突風二十五米右舷主機械は後進不能(前回入港の場合も

0075

右主機械起動安全装置故障のため（故障復旧時を待つ  
 てからにしてせぬことと申す）水先人は左舷機のみ不入港を断  
 行したか途中でその危険を認め断念した事があり（今回も右  
 舷後進が利かばり事を承知してゐる）  
 針路適宜内港に入り岸壁と約八〇度の交角距離約五  
 〇米で投錨（水深八米 錨鎖約十米）取舵一杯右舷前進  
 微速と且待機中の曳船に対し水先人は左舷後部を押し  
 し回頭も助けさせ様と一軒大聲で指令したか如何なる誤  
 か曳船は之に應せず 指定個処に船首をつけたむけを所要  
 の操作をなさず 離して歸りまうた 水先人は非常に怒つて  
 再三大聲で指令を發したが 効果は無かつた、  
 依り左停止石前進半速を令し之を反復しつゝ左回頭の情  
 力僅かにつぎ岩壁との距離四〇米位に下つた時前部船

0076

索を岩壁にとつて、此の時水先人は丙船前進微速を令し機関の作動するに及び直に左停止左後進半速を令した。然し意の如く左回頭の情力がつかないの下（此の場合右機軸の發停装置不具合の爲右前進微速が容易にからなかつた）従つて左前進だけか、利や左回頭が期待する頃に現れなかつた。水先人は速力通信器當番が正確に操作してあるものと誤判断をうけ、大聲で叱りながら、丙船前進原速を令し前進の行脚がつくと直に丙船停止、丙船後進一杯を令し、岩壁と艦首との距離五米に至り前進の行脚止り後進の情力で（此の場合右後進は作動してない）岩壁との距離約六の米となつた。

（水先人が丙船前進原速を令した時、本職は多危険を考慮し前進微速として、水先人は速力通信器當番も大聲にて叱りつけ、地團駄をふみ「原速」の所を指さし丙船前進原速とした）

0077

但し實際には此の原速は現出するなり

是に至つて水先人は人を拂ひ退け、自ら速力通信器を操作し  
両船前進原速・前進の行脚がつくと直に左停止左後進一杯  
を下命令した。此の時右舷機の前進が漸く作動し、その下で石  
後進一杯を令したが、時已に遅く取舵一杯両船後進一杯(作動  
せず)左錨投錨のまま、約四の度の交角を以て岩壁に衝突  
したのである。

爾後パイロットボート(小發)が本艦左艦尾を押し、漸く横付を  
完了した。

### 三、處置

横付後檢すると、切損個所は前部釣合兼バラスタック  
に當り此の儘で航海保安上支障無きものと認め出港した。  
呉歸投後、マンホールを開放調査すると、浸水約二噸、航海

0078

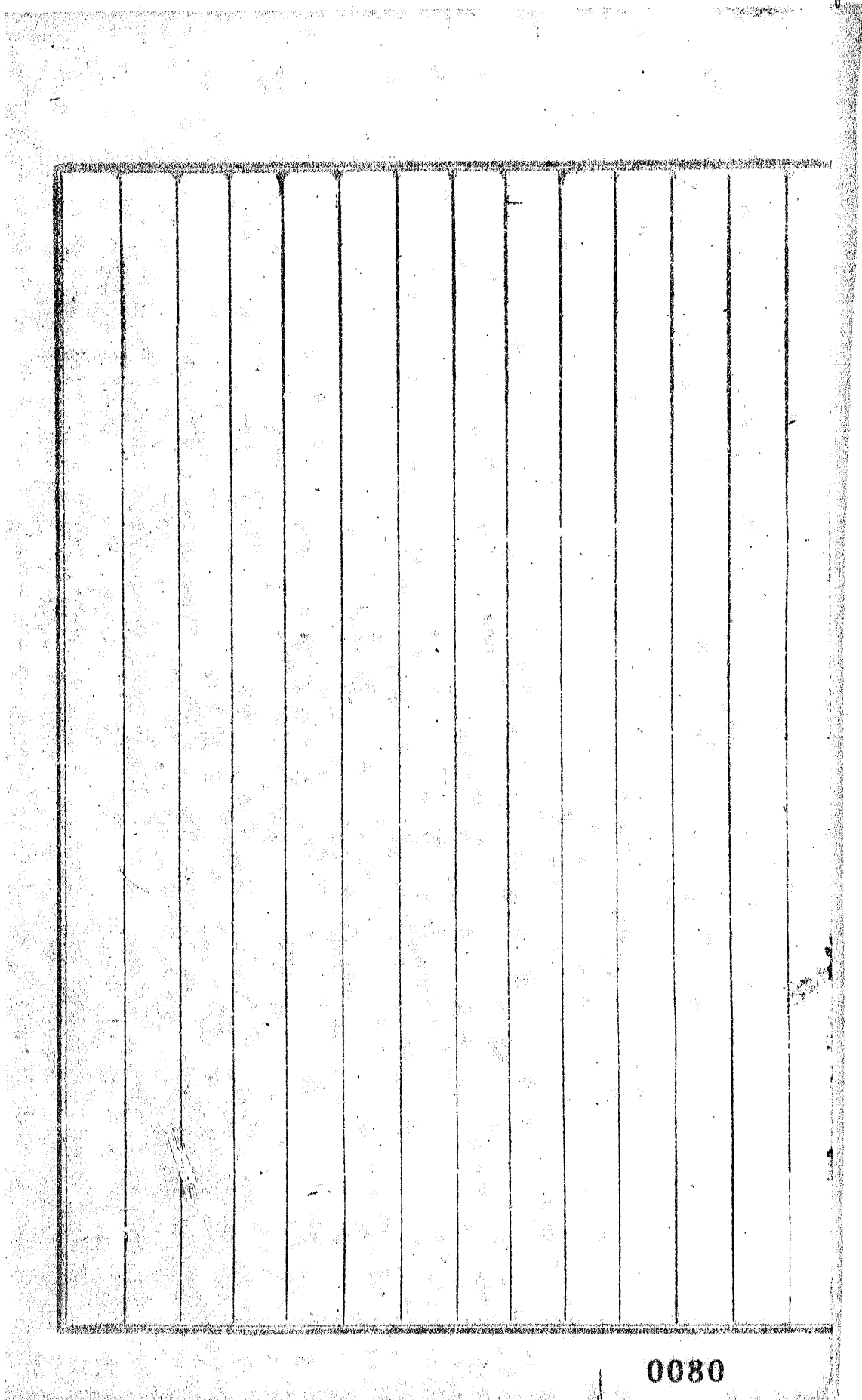
中は艦橋まで海水を被り荒天下あつたか切損部に変化は認めらるゝなかつた、

(終)

海

軍

0079



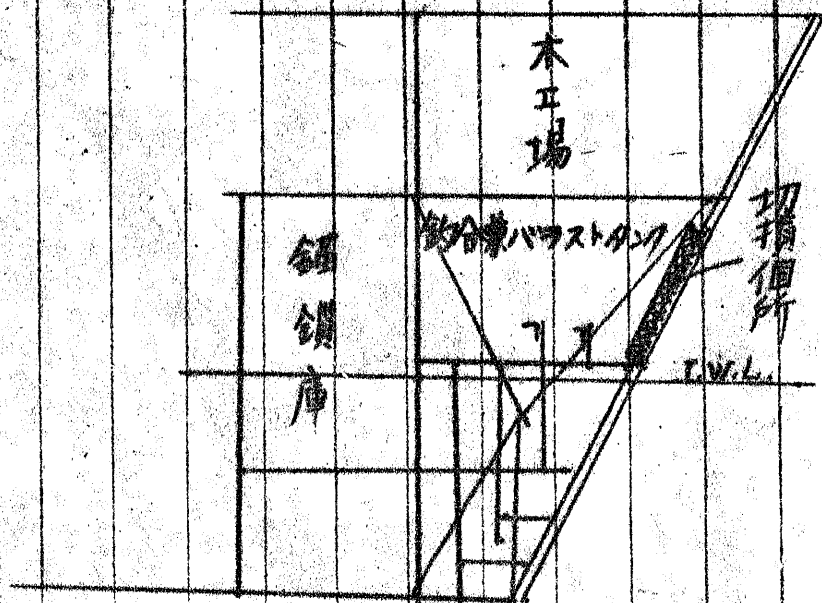
0080

**アジア歴史資料センター**

**Japan Center for Asian Historical Records**

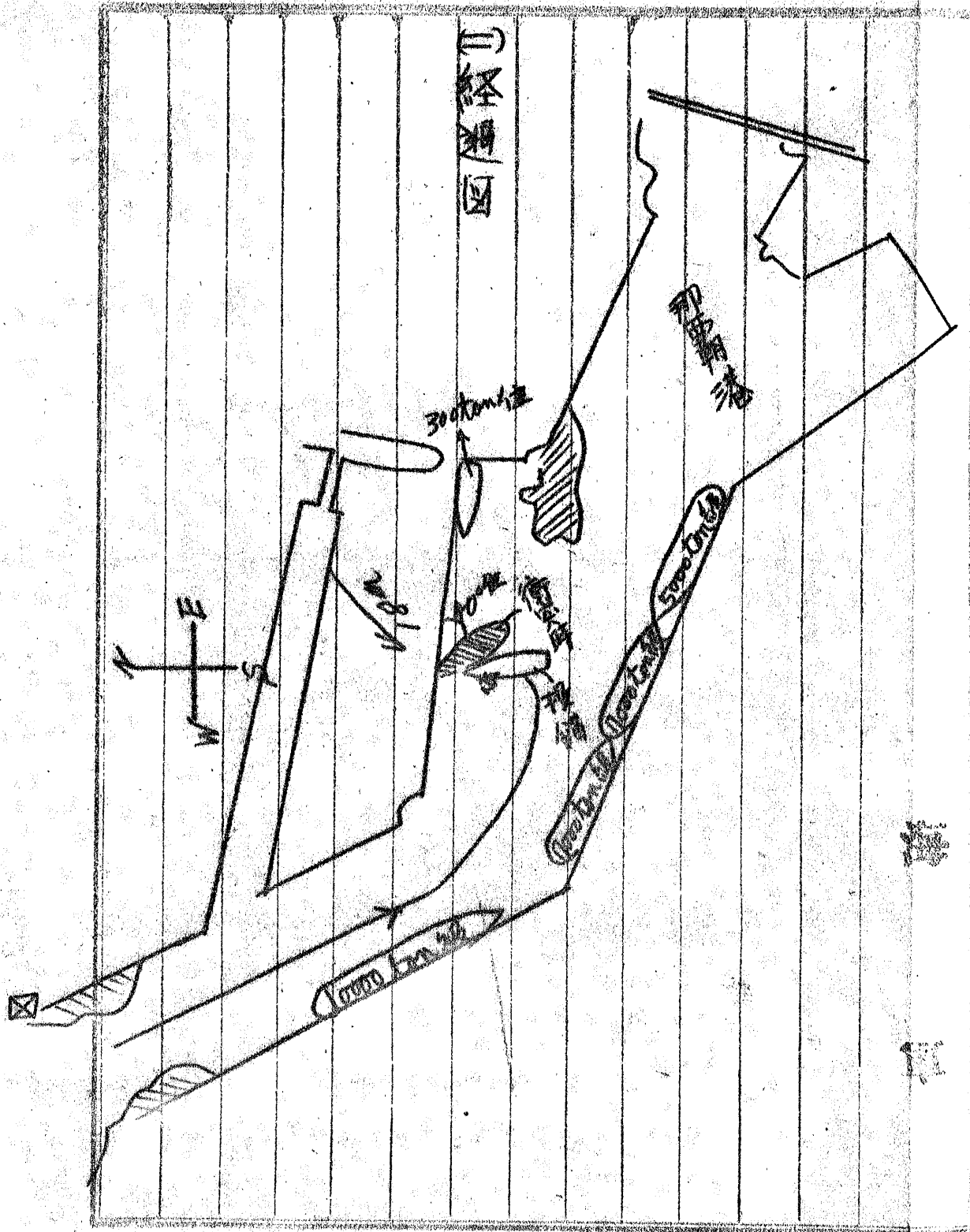
<http://www.jacar.go.jp/>

(附圖)  
一) 艦首側面図



縮尺  $\frac{1}{100}$

0081



0082